

本連載では、IT 経営マガジン「COMPASS」に掲載した全国の IT 活用事例を
もとに、中小企業の経営において、IT がどのように役立つかを解説していきます。

ITを事例から ひも解く



先を見据えたデジタル化プロジェクトで 若手が成長

今すぐ困る危機に直面しているわけではないけれど、社会の変化、数年後を見据えるとデジタル化を推進するタイミング—長期ビジョンを立て若手中心のデジタル化プロジェクトを推進中の岡山県・フジワラテクノアートは、毎年計画的にIT導入を進めています。

その取り組みが評価され、2022年の「日本DX大賞 中小規模法人部門」で大賞を受賞しました。

なぜITなのか、どう進めているのか、プロジェクト初年度の取組を紹介します。

「COMPASS」2021秋号から転載（記載内容は掲載時点のもの）



IT経営マガジン「COMPASS」編集長
石原 由美子

改革への挑戦が働き手の力を伸ばす—デジタル化プロジェクトを進行中のフジワラテクノアート（岡山県岡山市）にて、「変えていく力」が醸成される様子を目の当たりにした。

同社は、酒やしょうゆなど醸造食品の製造設備などで業界トップシェアを誇る。オーダーメイドの個別受注生産においてアフターフォローを大切に、顧客との信頼関係を築いてきた。シェアの高さに安泰することなく、同社はモノづくりの高度化・新しい価値提供に向けて「開発ビジョン2050」を打ち出した。行動計画における重要項目の一つがデジタル化の推進だった。

副社長の藤原加奈氏はその理由を次のように語る。「2050年に向けた長期ビジョンを実現し、社会やお客さまに新たな価値を創造していくには、効率化や見える化でさらに時間や利益を確保すること、そして情報やナレッジを組織で共有し、若手の成長スピードを上げることが必要です」

2019年10月、各部署から若手中心にスタッフを集めて「業務インフラ刷新委員会」を発足。役員も参加し、課題の共有と適切なITツールの導入を推進している。

プロジェクトの事務局を担ったのは、ITのスキルを持つ経営企画室の頼純英氏だ。現場の課題を聞き取り、ITで実現できることとの橋渡しを行った。「集まった課題は100を超えました。これを図示して業務フローとともに整理し、優先順位を議論しました。取組の第一が生産管理システムです」。個別受注生産

の特性から担当者がExcelで管理していたが、使い込まれてノウハウが詰まっており、バージョンアップもしやすい点から、パッケージソフトの活用を検討。ITベンダー4社に提案を求め、委員会の検討を経て、テクノア社の「TECHS-S」に決めた。受注—設計—生産プロセスの展開を統合管理できるようになり、製造に関する正確なデータが蓄積されると、見積もり精度の向上にもつながられる。

同時に、これまでFAXなど紙ベースで行っていた部品仕入れ先への発注をオンライン化した（「B to Bプラットフォーム発注連携オプション」）。取引先の同意を得て、現時点で取り扱い発注書の95%が電子化された。「オンラインの受発注は嫌がられるのでは？」との懸念もあったが、これは依頼側の思い込みだった。コロナ禍ということもあり、取引先は協力的だったという。

また、受発注の電子化導入においては一カ所だけパッケージソフトをカスタマイズし、社内業務の効率化を促進させた。システム導入によって製造現場は月間80時間の削減、発注の電子化で月400時間・月12万円のコスト削減を実現した。さらに大きかったのがプロジェクトを通じたモチベーションアップだ。「できた」という経験が自信につながり、会社全体を見て動く意識が高まったという。今後も、計画に沿ってデジタル化を進め、モノづくりの高度化や新しい価値提供を実現していく。

事例からヨミトル

- ・現場の効率化や見える化で、「次の手」を打ち価値を高める時間を捻出できます。
- ・ITの導入は、会社が目指す方向や全社視点での業務の理解を伴います。若手社員が成長する大きなチャンスです。
- ・目先の危機がなくとも、社内体制を整備していくこと、特にデジタル化の推進は、事業継続の原動力となります。

会社概要

社名 株式会社 フジワラテクノアート
住所 岡山県岡山市北区富吉2827-3
設立 1950年（創業1933年）
従業員数 147人
事業内容 醸造機械・食品機械の設計・製造など
URL <https://www.fujiwara-jp.com/>